令和 7 年度　東京都内湾水生生物調査　8 月鳥類調査　速報

●実施状況

令和 7 年 8 月 7 日に鳥類調査を実施した。調査当日は大潮で、干潮が 09:50（37cm）、満潮は 02:38（173cm）であった（気象庁のデータ）。各地点の概況を下表に示す。

	葛西人工渚(東なぎさ)	森ヶ崎の鼻	お台場海浜公園
調査時刻	12:15-13:27	8:50-9:50	10:22-11:32
調査時間(分)	72	60	70
天候	曇	曇	曇
気温(℃)	29.0	31.9	30.4
風向	東北東	西	南南西
風速（m/sec）	2.0	4.1	4.4
備考	干潟は広く干出。三枚洲は干出していなかった。	最干潮前から干潟は広く干出していた。	第六台場から鳥の島までの海上はうねりがあった。

●主な出現種等

	葛西人工渚(東なぎさ) ※沖合含む	森ヶ崎の鼻	お台場海浜公園
数が多かった鳥類上位 3 種	ウミネコ(2505 羽)	カワウ(363 羽)	カワウ(2682 羽)
	カワウ(1018 羽)	ウミネコ(94 羽)	アオサギ(64 羽)
	オオセグロカモメ(84 羽)	アオサギ(43 羽)	イソシギ(9 羽)
備考	・ミヤコドリ、ホウロクシギ、ダイシャクシギ、チュウサギ等、重要種として 11 種を確認。 ・シギ・チドリ類は 6 種を確認。ミヤコドリ、ホウロクシギ、ダイシャクシギ、ソリハシシギは干潟、イソシギは護岸、キアシシギは干潟と護岸で確認された。 ・干潟でカワウ、ウミネコ、オオセグロカモメの群れが休息、サギ類は主に採餌。チュウサギ 2 羽が干潟で休息していた。 ・トビ 1 羽が上空を飛翔。沖合の杭上でミサゴが休息。	・コチドリ、ササゴイ、ダイサギ、チョウゲンボウ等、重要種として 7 種を確認。 ・シギ・チドリ類はコチドリ、イソシギの 2 種を確認。コチドリは干潟で採餌、イソシギは護岸で主に採餌していた。 ・サギ類はササゴイ、アオサギ、ダイサギ、コサギを確認。ササゴイは護岸を移動しながら採餌。 ・干潟でカワウとウミネコの群れが休息、カルガモが採餌。 ・チョウゲンボウ 2 羽が護岸に降りて休息。	・イソシギ、キアシシギ、ダイサギ、コサギ、トビ等、重要種として 6 種を確認。 ・カワウの個体数は第六台場 688 羽、鳥の島 1991 羽、お台場海浜公園 3 羽、合計 2682 羽。繁殖は終了していた。 ・サギ類はアオサギ、ダイサギ、コサギを確認。 ・シギ・チドリ類はイソシギ、キアシシギの 2 種を確認。護岸で主に休息していた。 ・トビ 4 羽が第六台場の上空を飛翔。

●出現種と個体数

No.	目	科	種名	令和7年 8月								重要種 選定基準			
				葛西人工渚(東なぎさ)			森ヶ崎の鼻	お台場海浜公園				文化財保護法	種の[*1]保存法	環境省[*2] RL2020	東京都[*3] RDB2023 (区部)
				範囲内	沖合	合計		第六台場	鳥の島	公園側	合計				
1	カモ	カモ	カルガモ	1		1	11								
2	チドリ	ミヤコドリ	ミヤコドリ	5		5									VU
3		チドリ	コチドリ				4								CR
4		シギ	ホウロクシギ	1		1							国際	VU	CR
5			ダイシャクシギ	1		1									CR
6			ソリハシシギ	1		1									VU
7			イソシギ	5		5	4		4	5	9				VU
8			キアシシギ	3		3				4	4				VU
9		カモメ	ユリカモメ	1		1									
10			ウミネコ	2505		2505	94			4	4				留
11			オオセグロカモメ	84		84								NT	
12	カツオドリ	ウ	カワウ	987	31	1018	363	688	1991	3	2682				
13	ペリカン	サギ	ササゴイ				1								CR
14			アオサギ	21		21	43	13	48	3	64				
15			ダイサギ	41		41	17		6		6				NT
16			チュウサギ	2		2								NT	NT
17			コサギ	32		32	4			7	7				VU
18	タカ	ミサゴ	ミサゴ		1	1								NT	EN
19		タカ	トビ	1		1		4			4				NT
20	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ				2								EN
21	スズメ	セキレイ	ハクセキレイ							3	3				
計7目11科28種				16 種	2 種	17 種	10 種	3 種	4 種	7 種	9 種	0 種	1 種	4 種	15 種

※種の分類・配列は「日本鳥類目録 改訂第8版」(日本鳥学会,2024)に従った。

*1 文化財保護法：特天=特別天然記念物

*2 種の保存法：国際=国際希少野生動植物種、国内=国内希少野生動植物種

*3 環境省レッドリスト2020：CR=絶滅危惧IA類、EN=絶滅危惧ⅠB類、VU=絶滅危惧Ⅱ類、NT=準絶滅危惧、DD=情報不足

*4 東京都レッドデータブック2023(区部)2023年版：CR=絶滅危惧IA類、EN=絶滅危惧ⅠB類、VU=絶滅危惧Ⅱ類、NT=準絶滅危惧、DD=情報不足、留=留意種

＜葛西人工渚(東なぎさ)＞

〇調査地点の状況

干潟は広く干出し、調査中に徐々に狭まってきた。

西側の地点より南西方向を見る

〇出現種(シギ・チドリ類)

ミヤコドリ 5 羽、ホウロクシギ 1 羽、ダイシャクシギ 1 羽、ソリハシシギ 1 羽が干潟で採餌、イソシギ 5 羽が護岸で休息のほか、キアシシギは 1 羽が干潟で採餌、2 羽が護岸で休息していた。ホウロクシギは種の保存法で国際希少野生動植物種、環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類(VU)、東京都レッドデータブックで絶滅危惧IA 類(CR)に指定されている。また東京都レッドデータブックで、ダイシャクシギは絶滅危惧IA 類(CR)に、ミヤコドリ、ソリハシシギ、イソシギ、キアシシギは絶滅危惧Ⅱ類(VU)に指定されている。

〇出現種(サギ類)

アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギの 4 種が確認され、主に干潟で採餌していた。このうちチュウサギは環境省レッドリストと、東京都レッドデータブックで準絶滅危惧(NT)に指定されている。

チュウサギ

〇出現種(カモメ類)

ユリカモメ、ウミネコ、オオセグロカモメの 3 種が確認され、主に干潟で休息していた。このうちオオセグロカモメは環境省レッドリストで準絶滅危惧(NT)に指定されている。

オオセグロカモメ

〇干潟利用状況

干潟でカワウ 987 羽の群れとカモメ類が休息していたほか、サギ類が主に汀線付近で採餌、休息していた。トビが干潟上空に飛来した時には、カモメ類が一斉に飛び立つ様子が見られた。

〇出現種(ミサゴ)

沖合いの杭で休息していた。本種は環境省レッドリストで準絶滅危惧(NT)、東京都レッドデータブックで絶滅危惧ⅠB類(EN)に指定されている。

ミサゴ

＜森ヶ崎の鼻＞

〇調査地点の状況

干潟が広く干出していた。

〇出現種（シギ・チドリ類）

干潟で採餌するコチドリ 4 羽と、護岸で採餌と休息をするイソシギ 4 羽が確認された。コチドリは東京都レッドデータブックで絶滅危惧 IA 類（CR）に指定されている。

〇出現種（サギ類）

4 種のサギ類が確認された。個体数が多かったアオサギとダイサギは干潟で採餌と休息の両方を行い、コサギは主に干潟で採餌していた。ササゴイは護岸を移動しながら採餌する 1 羽が確認された。東京都レッドデータブックでササゴイは絶滅危惧 IA 類（CR）、ダイサギは準絶滅危惧（NT）、コサギは絶滅危惧Ⅱ類（VU）に指定されている。

〇干潟利用状況

カワウ 363 羽とウミネコ 94 羽が干潟の高い部分で休息していたほか、水たまりでカルガモが採餌していた。サギ類は汀線付近にいることが多く、採餌と休息のどちらも見られた。

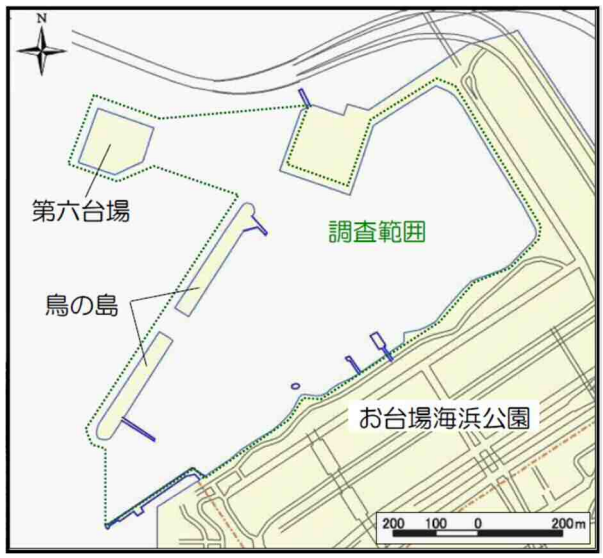
〇出現種（チョウゲンボウ）

護岸に 2 羽が降りていた。本種は環境省レッドリストで準絶滅危惧（NT）、東京都レッドデータブックで絶滅危惧ⅠB 類（EN）に指定されている。

＜お台場海浜公園＞

〇調査地点の状況

第六台場・鳥の島では、カワウの営巣は終了していた。



〇出現種（カワウ）

第六台場、鳥の島いずれも繁殖活動は終了しており、使用中の巣は見られなかった。カワウの個体数は第六台場に 688 羽、鳥の島に 1991 羽、お台場海浜公園に 3 羽、合計 2682 羽であった。第六台場や鳥の島の護岸では、巣立った幼鳥を含む大きな群れが休息していた。

鳥の島の護岸に降りたカワウの群れ

樹上のカワウ

〇出現種（サギ類）

アオサギ、ダイサギ、コサギの 3 種が確認された。令和 6 年度 8 月の調査ではアオサギの繁殖を示唆する行動が観察されたが、今回の調査でサギ類の繁殖は確認されなかった。

アオサギ

ダイサギ

コサギ

〇出現種（シギ・チドリ類）

鳥の島とお台場海浜公園の護岸でイソシギ 9 羽、お台場海浜公園でキアシシギ 4 羽が確認された。2 種とも、護岸や岩の上に降りて、採餌と休息を行っていた。

イソシギ

キアシシギ

〇出現種（トビ）

第六台場上空を飛翔する 4 羽が確認された。本種は東京都レッドデータブックで準絶滅危惧（NT）に指定されている。

＜その他＞

砂町運河でウミネコの成鳥 14 羽が確認された。幼鳥や雛、使用中の巣は確認されなかったことから、今季の繁殖は終了したと考えられる。このほか、付近でアオサギ 2 羽、ダイサギ 1 羽、京葉線の高架にカワウ 683 羽がとまっているのが確認された。

ウミネコが営巣する構造物

ウミネコ成鳥

京葉線の高架にとまるカワウ

＜トピックス＞

－ ダイサギの採餌行動－

葛西人工渚では、ダイサギの群れが干潟や浅瀬で活発に採餌していた。満ち潮で干潟が狭まってくると、干潟の中央にコサギとダイサギが集まり、魚を捕食していた（写真上段）。一部の個体は、体を低くして首を横に傾けた姿勢をとって（下段の写真）、魚を待ち伏せする様子が見られた。

浅瀬で採餌するダイサギとコサギ

首を傾けた状態で、魚を待つダイサギ（3 点とも）